



特定非営利活動法人 なんとなくのこわ 通信

URL <http://nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



4月20日、報徳今市振興会館と庭の桜

子育て・親育ち勉強会 開催

3月12日(土)、午後1時30分より、日光市教育委員会・発達相談員の帷子頭二郎さんを講師にむかえ、第9回目の「子育て・親育ち 勉強会」を開催しました。

今回は参加者一人ひとりがワークシートに書き込みながら発達障がいについて理解を深めるというスタイル。講義形式よりも理解が深まったという声が聞かれました。14名の参加者のうち、11名の方からアンケートに回答いただきましたので、その結果を掲載します。

1. 勉強会を何で知りましたか

①知人・友人から(2名)／②チラシを見て(9名)／③その他、新聞などで知った(なし)

2. 印象に残った点や感想などを書いてください

今や、発達障害法は小・中だけでなく、高校生までが支援の対象となっており、全国的に高校受験にも配慮が受けられると聞く。今回は事前に質問をしたのだから、県教委まで確認をとってもらいたかった。必要なのは、小・中のその先です。市から県に聞くのは遠慮があるのか? ◆質問に丁寧に答えて頂いて、大変嬉しかった◆発達障害について改めて勉強させてもらった◆わかりやすく勉強になった◆講義形式よりも記憶に残る勉強会になった。わが子がどの傾向に近いのかがわかったので、対応も具体的に考えられそうです◆発達障がいのことをわかっていたつもりでしたが、実は理解できていないことがわかり、有意義でした◆質問コーナーの中で、具体的な子どもの内情を知ることができ、障がい児の特性を少し理解できたような気が

する◆具体的傾向で詳細がわかってよかった。自分の子に当てはめてみながら考えることができた◆先生の熱意が伝わってきた◆初めての参加で、正直、難しいと感じたが、まずはそういうお子さんの存在を知り、自分ができることをしていくことが大切だと思った。

3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいですか

発達障がいをもっていることで学校に適応できず、不登校になったお子さんの進学や就職のことが知りたい◆同じ障がいがあるお子さんでうまくいった例について聞きたい◆職場で(大人のADHD)の人との関わり方を勉強したい◆わかりやすい話がいいです◆学童で、障がいの子どもたちに指導員の指示が入らず、困っているらしい。どうしていいのかわかるか◆本人は中学進学に不安を抱えているようだ。思春期の不安定な時期の乗り越え方を知りたい。家庭でできる対応策を教えてほしい◆対応策を具体的にお願いしたい◆絶対にしてはいけない対応なども知りたい。(具体例を通して)◆市の広報誌等でも広く情報を出してみたいかがでしょうか。

4. これからも、勉強会などの情報をお知らせしてよろしいでしょうか はい(8名) (白井)

目次

子育て親育ち勉強会	1
お知らせ	2
活動日誌	3
新たな支援事業	3
こんな本はいかが? (18)	4

居場所のひとつ

1月24日のメニューはサンドウィッチ。自分の好きなようにトッピングしていただきました。みかん、ホイップクリーム、チョコや、レタス、卵、ハム、ベーコン、鶏肉など。少しパンがたりなかったかも。コーンスープも作りました。



鳥山 0287(80)1023
FAX(80)1024

県北・日光版

日光のNPO 不登校の「子どもの居場所」

「日光」今市のNPO法人「なんとなくのにわ」(手塚郁夫理事長)は、今月から、不登校の子どものために運営する「子どもの居場所」の開館日を、週2日から週5日に増やした。継続的できめ細かなサポートなどが狙い。ただスタッフの確保が難しかったため、1日の開館時間を減らし、ボランティアの力も得て対応する。(田面木千香)

「居場所」は2009年10月に、学校へ行くのが困難な子どもたちを支援するために、4年6月、報徳今市振興会館の一角で始まった。スタッフは2人。利用する小中学生は1日に3〜4人で、ゲームをしたり勉強をしたりして自由に過ごす。決まったプログラムはないが月に1度、みんなでハンバーガーなどの昼食を作る。

不登校の子どもの数は変わっていくとい

週5日へ開館日拡大

う。

継続的サポート目指す



「最初は入るのも嫌

ボランティア活用し対応

が、だんだん慣れてきて元気になるように、スタッフの沼尾忠宏さん(27)。利用する男児も「テレビゲームもサッカーもできる」。

「最初は入るのも嫌が、だんだん慣れてきて元気になるように」と、スタッフの沼尾忠宏さん(27)。利用する男児も「テレビゲームもサッカーもできる」。

が、だんだん慣れてきて元気になるように、スタッフの沼尾忠宏さん(27)。利用する男児も「テレビゲームもサッカーもできる」。

「最初は入るのも嫌が、だんだん慣れてきて元気になるように」と、スタッフの沼尾忠宏さん(27)。利用する男児も「テレビゲームもサッカーもできる」。

「居場所」移転に向けて

来年度、報徳今市振興会館が取り壊されることになりました。「二宮先生百年祭」が開催された1955年、今市市(当時)小代在住の加藤武男氏から今市市へ寄贈された歴史ある日本家屋です。現在の場所に事務所を置いて農村復興事業に尽力した二宮尊徳さんを記念する建物として移築され、市民がレンタルできる集会所にも利用されながら長く親しまれてきました。お祭りや結婚披露宴など、地域のイベントなどに使われ、たいへん活躍したようです。

いまでは、あちこちに雨漏りや壁の傷みなどが見られます。それでも骨組みはしっかりしていて、昨年の大地震にはびくともせず、私たちの「居場所」を守ってくれました。「なんにわ」の案内パンフレットにもあるように、広々と落ち着きのある会館は、私たちの活動を支えてくれているように思えます。なんにわホームページ内に報徳会館を紹介するコーナーがあります。興味をもたれた方はぜひともご覧ください。

残念ですが、8年にわたってお世話になった報徳今市振興会館を離れなければなりません。来年までに「居場所」の移転先を決める予定です。「子どもの居場所」にふさわしい、静かな環境に移動できればと思います。情報がありましたら連絡用の携帯電話にお知らせください。

昨年度は長期に居場所を利用する子どもたちが増えました。より継続的なサポートが必要とされ、他団体から毎日開所の要望が強くなりました。市教委からの補助金は従来の週2回が想定されており、本年度の増額は難しい状態で予算を作らねばなりません。この1年は無給スタッフで一部をまかない、午前中の開館時間を減らし、予算の不足分は寄付やバザー等で補いながら、無理を承知で週5日開所を実施し、来年度につなげていこうと思います。みなさまのご理解、ご協力をお願いします。

もうひとつ、今年は報徳会館にお世話になった感謝を込めて、「さよなら報徳会館まつり」を開けたらと思っています。こちらもご協力をお願いします。(手塚)

子どもと若者のフリースペース☆不登校相談

なんとなくのにわ



子どもたちが集まり、ゆっくり過ごすことのできる「子どもの居場所」です。みんなの自主性を大切に、地域に根ざした新しい学びの場をめざしています。

NPO法人 なんとなくのにわ

「子どもの居場所・なんとなくのにわ」は 月～金曜日開いています。

- ある日のAさん ▼ 12:30 開館 ▼ 13:00 ～ ペーパークラフト・紙飛行機を作る ▼ 13:30 ～ 漢字と算数プリント ▼ 15:00 ～ 家でドッジボール ▼ 15:45 ～ スタッフとテレビゲームを楽しむ ▼ 16:20 ～ 閉館のお手伝い、お掃除 ▼ 16:30 閉館



- 1月16日(月) 通信「なんとなくのひろば」第26号 発行
- 1月29日(日) ベリー会
- 1月23日(月) 発達障がい支援者会議(第56回)
- 1月31日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! : サンドイッチ)
- 2月 8日(水) 市教委との打ち合わせ会(市役所)
- 2月13日(月) 茶話会(第29回)
- 2月26日(日) ベリー会
- 2月28日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! : クレープとシチュー)
- 3月 7日(水) 理事会(第44回)
- 3月10日(土) 子育て・親育ち勉強会(第9回)
- 3月12日(月) 茶話会(第30回)
- 3月25日(日) ベリー会
- 3月26日(月) 発達障がい支援者会議(第57回)
- 3月27日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! : ハンバーガー)
- 4月 2日(月) 「子どもの居場所・なんとなくのにわ」2012年度開始
- 4月 7日(土) サイエンス・カフェ37「増えている蝶、減っている蝶」葛谷健さん
- 4月21日(土) まにまに工房・なんにわ 花見会(報徳今市振興会館)



4月21日 花見会・子どもたちはそば打ちにも挑戦

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。

毎月第4月曜日 午後7時、日光市民活動支援センター

(都合によりお休みもありますので、参加希望の方はご連絡下さい)
どなたでも参加自由の会。気軽にご参加ください。(担当:西尾・白井)

子育て・親育ちの茶話会

場所:今市報徳振興会館

日時:毎月第2月曜日(午前10時~12時)

参加費:300円(お茶代) 次回は5月14日(月)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合ひましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合言葉に。(連絡は「なんとなくのにわ」へ 090-3227-7079)

発達障がい児・発達障がい者への新たな支援事業について

第44回理事会(3月7日)で栗原真佐美(くわはらまami)さんの理事就任が承認され、5月12日に予定されている通常総会において、承認をお願いすることになりました。今後の活動計画について、栗原さんよりのレポートを以下に掲載します。

2006年に施行された「障害者自立支援法」が改正され、2012年4月より、発達障がい児・者(以下、「発達障がい者」と略記)が法の対象となることが明確化されました。学びの場を卒業した障がい者は福祉分野のサービスを利用することになります。しかし、発達障がい者に対するサービスや相談支援事業は、いまのところ十分な体制とはいえません。

そんな現状をふまえ、発達障がいを持つ子どもたちの成長に、深く関わってきた「なんにわ」の一員として、「なんにわ」に新たな支援事業を立ち上げたいという強い思いを持ちました。今後、相談支援事業者の指定を受け、継続した支援を行うため力を尽くしたいと考えています。

まず、今年度は栃木県で行われる相談支援専門員研修を受講する予定です。日光市においては、準備段階

として初年度に20名のプラン作成、来年度には40名と、徐々に増やしていき、3年後には障がい者およそ200名のプラン作成ができる体制を考えているようです。このプラン作成については「なんにわ」は実績がありませんので、直ちに仕事として関わられるかは未知数です。

行政の動きを見定め、「なんにわ」の事業として成立するよう進めていこうと思います。みなさまのご協力をよろしくお願いします。(栗原)

来年度より本格化するこの事業の展開に向けて、5月の通常総会で定款変更を提案します。変更案は以下のとおりです。現在の(目的)は本通信の4ページ右上にあります。(手塚)

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出すことを目的とする。



こんな本はいかが？ その18 絵本あれこれ

今回は、30年くらい前から読み継がれている斎藤隆介の絵本を、3冊紹介します。どれも滝平二郎の切り絵の作品で、とても力強さを感じます。小学校高学年の子どもたちには是非とも読んでほしい本です。

- ① 「八郎」 斎藤隆介・作 滝平二郎・画 福音館書店
この本は秋田の方言で書かれていますが、何度も読んでいくうちに、心地よい温かさがあふれてきます。「人のために自分のできることをやる」って、いつの時代にも共通する確かなメッセージです。
- ② 「花さき山」 斎藤隆介・作 滝平二郎・絵 岩崎書店
この本は「八郎」同様、人の悲しいまでの献身的な優しさがこめられています。「やさしいことをすれば花がさく」山んばから聞いたこの話は、あやの心に深く刻まれ、やさしい子に育っていくのです。
- ③ 「モチモチの木」 斎藤隆介・作 滝平二郎・絵 岩崎書店
この本は「おくびょう豆太」が思わぬ勇気をふるい起こして「じさま」を助ける話。その勇気のご褒美がモチモチの木に火が灯る光景。こんな「おくびょう豆太」を見守り育てる「じさま」の愛情になんともいえない温かさを感じます。

さらにもう1冊。
親子の愛情の絆を静かに語って、感動を呼んだ絵本です。

- ④ 「ラヴ・ユー・フォーエバー」
ロバート・マンチ／作 梅田俊作／絵
お母さんの子どもに対する愛情は、きっといつの時代も変わらないのかもしれませんが。ただ子どもの変化についていけないとき、子どもとの様々な闘い？があるわけですが……。親は子どもを信じて待つことがとても大事なことですよね。

絵本は子どもの本と思っている方が多いと思いますが、読んでみると大人も深い感動を味わうことができます。さらに声を出して読むこともお勧めです。(白井)

私たちの活動目的：

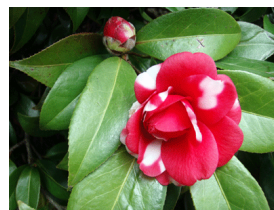
日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

会員について

正会員：46
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。



年会費(一口)：正会員 3,000円
賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんにわ」活動は会費と寄付金でまかなわれています。今年度は月～金の週5日居場所開設のため、ますます必要経費が切迫しています。

会員の継続をよろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願ひ致します。

なんとなくのへや

4月の「サイエンス・カフェ」は蝶がテーマでした。講師の葛谷さんが撮影された鮮やかな蝶をスクリーンに眺めながら、蝶と環境の関わりについての話に興味をひかれ、楽しい時間を過ごしました■日本はアジア大陸の辺縁にある島国です。大陸からそれほど遠くないという理由で、多種の生物が入って来たらしい。また、海流のおかげで氷河期も比較的温暖だったため、生物の避難所になったのかもしれないという説は印象に残りました■日本人はユーラシア大陸の西側で繰り返された戦いを嫌い、東へ東へと移動してきた集団の子孫であるという説があります。戦いから逃れた人たちがこの島に集まり、穏やかに維持してきた半自然草原が蝶の住処となり、多くの蝶たちが定着したのではないかと考えると、美しい物語が作れそうな気がします■DNA分析によると日本人は南方からやってきたという説が有力のようですし、そもそもヒトと蝶のどちらが早く日本列島に入ってきたのかもよくわからないので、無理のある想像かもしれませんが■いま、人々が国をあげての国際競争に駆り出されるいっぽうで、里山や草原は人の手が入らない状態です。そんな環境に暮らす、絶滅を危ぶまれている生き物たちは、私たちに何かを訴えているのではと、蝶の姿を眺めながらぼんやりと考えてしまいました。(T)